

ネットワークセンター助成金！！

吾妻連峰が錦秋に染まる頃、ふくしま NPO ネットワークセンターは「助成金」の季節を迎えます。

2016年度「第8回ふくしま元気市民助成金」(過去助成実績10万円×25団体)「第3回のつぼ基金助成金」(過去助成実績100万円×3団体)は9月5日から募集が開始され、本紙が発行される時期には審査会を終えて、結果が通知される予定です。また、協働・連携で取り組んでいる、福島銀行「ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金」(過去助成実績10万円×14団体)は今年度5回目を数えています。

今後もふくしま NPO ネットワークセンターは“認定NPO”の中間支援組織として、皆様から寄せられた寄付金による、有効かつ効果的に活用されるために「市民活動の元気」をサポートします。

(ふくしまNPOネットワークセンター常務理事 齋藤美佐)



2016 年度助成金採択事業決定！

【ふくしま元気市民活動助成金】

- 特定非営利活動法人 江湖村
事業名:猪苗代湖有機性資源を回収し、バイオマス燃料を作ろう！
- 特定非営利活動法人 CHANT
事業名:車いす用体重計購入
- 特定非営利活動法人 はるなか
事業名:小田山の歴史継承事業

【のつぼ基金助成金】

- 特定非営利活動法人シャローム
事業名:「いいたてパソコンクラブ」ホームページ運営支援事業

【ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金】

- 特定非営利活動法人市民後見サポートの会
事業名:備品整備事業
- kokoyori
事業名:大人も子どももわらってりらっくすできる場所すかがわこども食堂 わりらでクリスマス
- 特定非営利活動法人子どもたちのいのちを守る会・ふくしま
事業名:昔の暮らし体験と音楽演奏会
- ふるさとの川 荒川づくり協議会
事業名:子供の自然学習
- 福島南子ども劇場
事業名:人形劇「プレーメンの音楽隊」を一緒に観よう

—福島県より受託、運営している施設—

- ふくしま地域活動団体サポートセンター
〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>
E-mail saposen@f-npo.jp

—福島市の指定管理制度で運営している施設—

- 福島市市民活動サポートセンター
〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

—福島市より受託、運営している施設—

- まちの駅 ふくしま情報ステーション
〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

編集後記

11月になっても小春日和の暖かい日が続き、晩秋はまだかと思っていましたが、吾妻山に雪が積もる時期になってしまいました。秋が短くなってきた感じがします。

各事業も佳境を迎え、理事・職員一同風邪をひく暇もなく頑張っております。様々な事業がありますので、皆様覗いてみては如何でしょうか？

(ふくしまNPOネットワークセンター 常務理事 菅野 真)

- 編集・発行
認定特定非営利活動法人
ふくしま NPO ネットワークセンター
〒960-8068
福島市太田町 12-30 マルベリービル 6 階
TEL 024-572-7930 FAX 024-572-7931
E-mail center@f-npo.jp URL <http://www.f-npo.jp/>



認定 NPO 法人 ふくしまNPOネットワークセンター通信 No.63

のっぽの手

◆◆◆◆ 注目記事 ◆◆◆◆

- 「NPOと信頼」
- まちの駅全国フォーラム in TOKYO 参加報告
- 福島県に熱き視線、若者に yell!

2016年 11月発行

NPO と信頼

認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター

理事長 牧田 実

去る9月16日、福島県のNPO業界を震撼させる報道がありました。「復興補助金を不正受給 543万円 県北の団体、福島県が返還命令」という見出しのもと、「県は15日、県北地方の地域づくり団体が、架空の領収書を提出するなどして県からの補助金計543万3000円を不正受給していたと発表した。(略)不正受給があったのは『地域づくり総合支援事業補助金(昨年度から地域創生総合支援事業補助金に名称変更)』と『ふるさと・きずな維持再生・支援事業補助金』。いずれも地域のにぎわい創出や復興に取り組む団体の活動を支援する」(福島民友ニュース・ネット版)との一報が流れたのです。同日中には、当該団体の実名も明らかになりました。

私どもネットワークセンターは、記事にある補助金と趣旨を同じくする福島県の「ふるさとふくしま交流・相談支援事業」の受給団体の業務遂行状況の確認を県から委託されています。また、当該団体は、私どもの自主事業である「のつぼ基金助成金」の助成対象団体でもあり、他人事ではありません。「のつぼ基金助成金」については、2014年度に85万円を助成しました。この助成金については、事業終了報告書の提出を受け、一部曖昧な点については面談のうえ事実確認をし、追加資料の提出を求めるなどして精査しましたが、不正の事実は確認できなかったため、処理済みとなっていることをあらためて報告いたします。

2009年には、当時、岩手県で最大規模であ

り、中核的な中間支援組織でもあったNPO法人が、岩手県委託のグリーンツーリズム関連事業で旅行業の外務員証を資格がない職員に持たせていたこと、申請書類の偽造、コピー機収入の裏金化、領収書偽装による助成金の不正受給など、度重なる不祥事により、3210万円の負債を抱えて破産するという事件もありました。

かくいう私どもネットワークセンターも、2005年、ふくしま情報ステーションにおいて委託金の横領が発覚するという「負の歴史」を抱えています。そして、この事件を契機に、私どもが営々と組織コンプライアンス(法令遵守)の向上に努めてきたこともまた事実です。

「不特定かつ多数のものの利益の増進」(NPO法第2条)、「公益の増進」(同第1条)をめざしながらも、財政基盤が脆弱なNPO法人にとって、ましてや中間支援組織にとって、社会的な信頼がすべてです。信頼を失うのは一瞬ですが、信頼を得るためには長い月日がかかります。今回の事件を受け、NPO業界全体の信頼回復のために、地道に努力していかねばならないと決意を新たにしています。



まちの駅全国フォーラム in TOKYO 参加報告 地域を元気にする知恵やひらめきが結集!

9月30日・10月1日の2日間にわたり、第19回まちの駅全国大会『まちの駅全国フォーラム in TOKYO』が開催され、全国から124名が集いました。まちの駅ネットワークふくしまからは福地会長はじめ6名が参加しました。(会場/代々木オリンピック記念青少年総合センター)



～総会の様子～

基調講演「マップ作りから始める住民参加のまちづくり」と、お楽しみプログラム「藤田とし子さんのマップ作り講座」の両日に登壇した講師は、まちとひと感動のデザイン研究所 藤田とし子代表。マップを作るには住民の視点をポイントに置くことや、自らの足で情報を集めるなどさまざまな“しかけ”を楽しみながら作るなど、まちの連携や活性化のヒントを伝授してくれました。ワークショップには、内山愛美理事と齋藤美左子さんが参加し折しも「まちの駅 MAP」の

作成中とあって、「プロセスや徹底した情報収集に感心し、とても参考になった」と述べていました。

5つの分科会では、全国各地からテーマに沿った事業の成功事例を紹介するなど、具体的かつ実践的な「まちの駅」の課題解決のヒントを得るなど刺激的な時間になりました。

もう一つのお楽しみプログラム「明治神宮の森の散策」は、東京オリンピックの開催年に植栽から100年を迎える人工森の歴史に触れる機会となりました。世界の森林を手掛けてきた経験を持つ明治神宮林苑担当 田中昌之さんから解説をいただき、豊かな知識と自然に触れることができました。

年一度の「まちの駅全国大会」は、自分たちの地域課題の輪郭を捉える貴重な機会となりました。2017年は福岡で開催される予定です。(ふくしまNPOネットワークセンター 常務理事 齋藤 美佐)



～明治神宮の森人気No. 1 風景～

2017年は福岡で開催される予定です。(ふくしまNPOネットワークセンター 常務理事 齋藤 美佐)

福島に恋する私 ～NPOと私～

高校3年生の時に建築の道に進もうと決めた私は、バブル崩壊直後に大学を卒業して社会人になっても、特にNPOに関心はありませんでした。もっとも、あの頃はまだNPOという言葉がなく、市民活動と呼ばれていた時代でした。

大手住宅メーカーに3年勤め、福島に戻って建築設計事務所に入社したのですが、ひよんなことから前副理事長の佐藤和子さんと出会ったことが、市民活動に興味を持ったきっかけとなりました。バブル崩壊後の1990年代から中心市街地の空洞化が叫ばれるようになり、エンドチェーンが撤退し、コルニエツタヤが破産する直前の時期です。先述の和子さんはじめ中心市街地空洞化に危機感を持たれた先輩方が、福島市の中心市街地をどうするべきかと開いた「どうすっぺ福島博覧会」にも数回携わり、音楽やファッションショー等でのイベ

ントを担当したことが今でも鮮明に思い出されます。和子さんの会社のアルバイトやよく出入りする同世代の7人くらいで「福島に恋する会」という任意団体を作って、福島市音楽堂で子どもたちの為の宇宙物理学の佐治先生とパイプオルガニストの伊澤先生によるコンサートを開くなど、あの頃が私のNPOに関わる下地になっているのだと思います。

ふくしまNPOネットワークセンターとの関わりは、米沢市長だった安倍三十郎さんつながりで理事でもある清水修二先生との出会いからです。清水先生に誘われて理事となり、もう5年弱になります。零細企業を営みながらで、なかなか全力で役目を果たせず心苦しいばかりですが、微力ながらセンターのため、恋する福島のために頑張りたいと思います。

(ふくしまNPOネットワークセンター 常務理事 菅野 真)

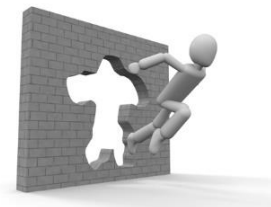
福島県に熱き視線、若者に yell!

住友商事 東日本再生
ユースチャレンジ・プログラム
インターン奨励プログラム 2016

福島市市民活動サポートセンターにおいて、6月26日(日)2016年度3県合同入校式を行いました。2016年度のプログラムのスタートです。14名のインターンがそれぞれの受入れ団体で9か月間のインターン活動を開始しました。

東日本大震災被災地3県で「若者の人材育成」と「東日本の復興」をテーマに行われているこのプログラムは今年で5年目をむかえます。(福島は4年目)チャレンジするインターン一人一人の個性が輝き、成長を目の前で見ることができるのが、このプログラムの良さでもあります。また、受入れる側も彼らから、新しい視点ももらい、気づけば成長しています。まさに、切磋琢磨の真剣勝負です。

今年度、これまで各県ごとに実施してきた合宿を3県合同で行うため、インターンが頑張っています。どんな成長を見ることができるのか、今から楽しみです。



(福島市市民活動サポートセンター チーフ 内山 愛美)



チャレンジインターンシップ

チャレンジインターンシップには、自分自身の夏休みを有意義なものにしたいという学生からたくさんの応募があり、福島県内のNPO法人16団体が受け皿となり高校生11名、大学生21名、合計32名がチャレンジしました。

当初予定していた学生の人数を大幅に超える事業のスタートとなりました。

7月26日(火)に郡山市ミュールがくと館大ホールで行われた開講式ではインターン生と受入れNPO法人の活動に力強い意気込みを聞くことができ、当日に行われた各活動に関する打ち合わせでは、団体とインターン生が日程調整も含め活動の充実をはかるために真剣に話合う姿が見られました。

8月から9月中旬にかけて、暑い中ふくしま地域活動団体サポートセンターでも受入れとなった16団体すべてを訪問し、活動するインターン生の取材をしました。

取材を通して感じたことは、農業やまちづくりなど日頃関わりが少ない分野で活動することがインターン生の刺激となり、学び成長する機会になっていることがインターン生の言葉、表情から伝わってきたことです。

11月20日(日)郡山市のビッグパレットふくしまにて閉講式があり、インターンシップ生から熱い活動報告がありました。福島県が抱えている地域課題に取り組むNPO法人の中で、暑い夏を過ごした学生の素晴らしい体験報告会でした。

(ふくしま地域活動団体サポートセンター チーフ 野地 理恵子)



ふくしまNPOネットワークセンター事業報告:

ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局

ふるさとふくしま交流相談支援事業では、「県外避難者支援事業」および「県内避難者・帰還者支援事業」で現在、一次(6月)二次(8月)採択団体への現地訪問調査を随時実施しています。北は青森から南は沖縄まで全81団体のもとへ、一週間のうち3日から4日は出張という状況です。また「県内避難者・帰還者支援事業」については、三次募集(11月)も実施され、最終的には来年2月までに90~100団体程度を、現地訪問調査する予定です。



この調査では、採択団体の方々に当事業に関する経理資料や領収書等をご準備いただき、会計の整理状況のチェックと、計画した事業の適正な遂行状況の確認、そして今後の事業を進めるにあたっての問題点等の聴き取りなどを行います。また同時に、現地避難者の状況や支援当事者としての現在の課題などを伺ったりもします。



これまでの現地訪問調査で、採択団体の皆さまからお聞きした声で多かったのが「これまでは、避難者に対して均一で平均的な支援でよかったのが、5年経った今は、避難者の抱える事情が一人ひとり違って多様化してきているので、その一人ひとりに対して支援の方法を熟慮して対応していかなければならなくなってきている」というもの。それだけ人手も時間もお金もかかり、今後の支援活動は更に難しくなっていくようです。

私たちの関わっているふるさとふくしま交流・相談支援事業は、このように難しくなる状況にもかかわらず、高い志のもとに県外・県内の避難者に対する支援活動を実施しようと頑張っている市民活動団体の皆さまを支援するものです。これからも、皆さまの支援活動が円滑に進むよう事務局として努力してまいります。



※ ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局のウェブサイトが出来ました。

<http://ff-shien.jp>

当事業採択団体の皆さまの活動内容等を順次紹介していきます。

(ふるさとふくしま交流・相談支援事業事務局
チーフ 後藤 一光)

ふくしまNPOネットワークセンター事業報告:

福島市市民活動サポートセンター

ふくサポ2016年度事業始まる

7月から、福島市市民活動サポートセンターの2016年度の事業を開始した。今年度は福島市の委託事業「市民活動ステップアップ講座」「NPOマネジメント講座」「オープンセミナー(講演会)」、自主講座「まちづくりカフェ」などの15講座に加えて、2回の「登録団体連絡会」を実施する予定である。まさに今が一番早回転で走る続ける時期であろう。昨年と比べても行事を2つ増やすなど、過去に1番忙しいふくサポとなっているのかもしれない。

スタッフも疲労困憊では・・・?と、心配しているのだが、4月に新しくメンバーに加わった、深澤常勤顧問のパワーに押し上げられて、パワフルに仕事することが常になってきたように思える。

3月まで企業で活躍していた深澤常勤顧問の言葉を借りれば「業務をこなすのではなく、仕事をしよう!!」だろうか。

NPOは課題解決に向け、生き活きと活動するのが基本であるが、いつしか、やらなければならないたくさんの業務に追われる日々であったように感じる。

そんな日々を振り返り、ふくサポにとって「本当に必要な業務とは何であろう?」、「私たちは支援する

べき活動団体の方向を向いているのだろうか?」、「利用者は何を求めているのだろうか?」など、原点に立ち返って業務の内容を見直している。

例えば、「登録団体連絡会はグループワークで参加者全員がゆっくり話せる場をつくる」、「まちづくりカフェは協力団体と密に連絡を取り、協力団体をよく知った上で企画をしていく」、「支援活動はできるだけ、現場をまわり、必要なことを再検討する」など、現在のスタッフ数、あたえられる時間を考慮すれば、難しいことも多々あり、絶えず試されているような気もするが……。

今、ふくサポの一番の悩みは11月26日(土)、27日(日)にチェンバおおまちの1階と3階で実施する「ふくしま市民活動フェスティバル2016」だろうか。「協働の種」をテーマに参加される団体の目線、協力いただく企業目線、来場者目線等、多くの可能性と今後の展開を視野に事務局として、楽しく、実のあるフェスティバルの運営を実行していきたい。是非、多くの方に来場していただきたいと願うばかりである。

(福島市市民活動サポートセンター
チーフ 内山 愛美)



ふくしまNPOネットワークセンター事業報告:

ふくしま地域活動団体サポートセンター

ふくしま地域活動団体サポートセンターは
NPO 相談・講座の開催、県内中間支援センター情報交換会などを行っています。

【NPO なんでも相談】

NPOなんでも相談は26件となっており、最近はやブライジングなど運営資金の調達の方法についての問い合わせが多く寄せられています。8月31日(水)発行のサポセンニュースレターVol.1でもそれに合わせて、クラウドファンディングで成功した団体のキーパーソンの体験談を掲載しました。



その他、今年度は相談から派生して講座開催となるケースが多くなります。

石川町ではNPO設立講座を、

いわき市では人材育成を目的とした講座を開催し、多様な相談内容に合わせた対応を随時行っています。

【講座開催】

講座も県内各地で開催となり、9月28日(水)に喜多方市厚生会館で行われたNPOの役員・事務局長講座では喜多方市内はもちろん郡山市など他市町あわせて20名の方の参加で、特定非営利活動法人山形の公益活動を応援する会・アミル代表理事の齋藤和人さんを講師に迎え、「機能する事務局・理事会とは？」～事務局と理事会のあり方を考える～とのタイトルでお話しいただきました。

団体は違えども共通の悩みを抱えている方も多く、自団体に引き寄せて考えやすい内容で、各テーブルでのワークに入ると、休憩時間も忘れ熱心に話す姿が見られました。

10月3日(月)に会津美里町公民館で行われたSNS講座「フェイスブックを学ぼう！」初級～中級編は、当日参加者も含め、会津美里町を中心に34名の参加となりました。



昨年度に引き続き久野雅己さん(株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役)に今年度も講師を務め

ていただき、SNSでも特に人気のフェイスブックを参加者に合わせた内容でお話しいただきました。

講座内で参加者自身がフェイスブックをアップするなど、学んだことがすぐに活用できる実践的な講座となりました。

サポセンでは今後も講座が目白押しです。

11月17日(木)には「スペシャリストのためのNPO会計基準講座」と題して、税理士、公認会計士などを対象とした講座を郡山市ミューカルがくと館大ホールにて行います。

12月22日(木)には「NPO法基礎講座」を須賀川市産業会館2階研修室にて行います。この機会にNPO法について学んでみませんか？

10月より12月まで、全6回の連続講座を2つ行っています。郡山市で開催のNPOマネジメント講座は6団体14名、福島市で開催の人材育成講座は15団体32名の参加です。団体の組織基盤強化や個人のスキルアップを目指して皆さん真剣に取り組んでいます。

【情報交換会】

地域活動団体中間支援センター情報交換会は第1回を6月29日(水)、第2回を9月6日(火)にいずれも郡山市にて開催しました。今年度の情報交換会ではあわせて福島県NPOのつどい(プレ)の懇談会も行っています。

震災からの5年を振り返りNPOが福島復興の実現にむけて今後の発展ができるように、福島県内のNPOが一堂に会し、地域や分野を超えた交流を通して、活動のノウハウの共有やネットワークづくりのきっかけの「場」となるように、福島県NPOのつどい(プレ)を開催予定です。



(ふくしま地域活動団体サポートセンター
チーフ 野地 理恵子)

ふくしまNPOネットワークセンター事業報告:

ふくしま情報ステーション

～まちの駅 ネットワークふくしまを紹介～



ふくしま情報ステーションは、「まちの駅ネットワークふくしま」の事務局を担当。隔月に駅長会議を開催し、事業運営を行っています。まちの駅を知ってもらうため、情報ステーションを除く19駅を紹介します。

～ まちの駅20駅に拡大 ～

ネットワークでは、まちの駅の拡大の取り組みをしていたところですが、関係者のご理解で、6事業所が新しくまちの駅の認定を受け、ネットワークに加盟し、20駅となりました。

～ 認知度を高めるために ～

まちの駅は、市民の皆さんから、「道の駅は知っているが、まちの駅は知らない」と言われています。ネットワークでは、まちの駅を広く市民に知ってもらうため、ホームページを開発していますが、さらに、まちの駅案内マップを作成することとしました。マップは、まちの駅に足を運んでもらうキッカケづくりになり、地域の皆さんとの出会いと交流そして地域活性化が、図られます。

～ 新しいまちの駅 ～

- ・「まちの駅 パルせいざか」
飯坂温泉街にあるコンベンションホールです。館内に、休憩スペースがあります。
- ・「まちの駅 旧堀切邸」
江戸から続いた豪農の旧家で、源泉かけ流しの足湯があり、美しい庭園がある憩いの場所です。
- ・「まちの駅 波来湯」
飯坂温泉にある共同浴場の一つで源泉かけ流しの熱い湯と温めの湯が楽しめます。
- ・「まちの駅 四季の里」
芝生に覆われ四季折々の草花が咲き競い、家族で楽しめる周年型公園施設です。
- ・「信夫山ガイドセンター」
信夫山の山腹に信夫山の歴史資料の展示、休憩スペースからの眺望が楽しめます。
- ・「まちの駅 SAORI」
障がい者支援事業所で、さをり織りの製作・販売をし、手織り体験もできる癒しの空間を提供しています。

～ 13駅の紹介 ～

- ・「清流 荒川資料室駅」
6年連続日本一清流荒川の資料が盛りだくさんです。
- ・「まちの駅 パセナカMisse」
パセオ通りにあり、飲食店、FMポコがあるコミュニティー型商業ビルで、空間スペースもあります。

- ・「パンの駅 まちなか夢工房」
おいしいパンを製造・販売しています。
- ・「まちの駅 電工社」
信夫山沿いの電気工事会社です。信夫山散策時にお立ち寄りください。
- ・「まちの駅 ふくサポ」
チェンバおおまちにあり市民活動・ボランティアの情報を提供しています。
- ・「まちの駅 おぐら茶屋」
御倉邸園内にある茶屋で、母なる川阿武隈川の隈畔を眺めて一休みができます。
- ・「古関祐而記念館駅」
福島名誉市民古関祐而先生の業績や古関メロディーが聞かれる癒しの博物館です

～各まちの駅は、特色あるまちの駅です～

- ・「空の駅 ふくしまスカイパーク」
吾妻連峰はじめ美しい山々に囲まれた飛行場です。
- ・「まちの駅 大町きたさん」
チェンバおおまちにある福島の名産品いっぱいアンテナショップです。
- ・「福島ふるふるステーション」
ふくしまの旬のくだものを販売しています。
- ・「お茶の駅 松北園」
おいしい日本茶を販売しています。
- ・「うつわの駅 おかざき」
陶器を扱う器の店で、店内には、ミニギャラリーもあります。
- ・「まちの駅・あきたや楽器店」
CDや各種楽器、楽譜を扱う市内唯一の楽器店です。

～ 笑顔でお迎え ～

・まちの駅は、お客さんを笑顔でお迎えます。まち歩きの際は、ぜひ、おいでいただき、まちの駅の良さを満喫してください。

～ 新たな事業の展開が課題 ～

今後は、マップを活用した連携強化と新たな事業展開が求められ、どう取り組んでいくかが課題です。

(ふくしま情報ステーション

所長 川浪 廣次)

